

IPY (国際極年) 2007-2008

International Polar Year (IPY) 2007-2008

佐藤 夏雄 [1]
Natsuo Sato[1]

[1] 極地研
[1] NIPR

国際科学会議 (ICSU) と世界気象機関 (WMO) は、1957 年～1958 年に実施された国際地球観測年 (IGY) から 50 年後となる機会に、国際協調に基づく極地の学術研究と観測及びそのアウトリーチ・教育のため、国際極年合同委員会 (ICSU/WMO Joint Committee) を立ち上げ、IPY (International Polar Year:国際極年) 2007-2008 を計画した。国際極年の主要テーマは、(1) 極域環境の現状の把握、(2) 極域環境のこれまでの変化と将来予測における精度の向上、(3) 地球システムの中での極域と他地域との相互作用の理解、(4) 極域における科学フロンティアの調査研究、(5) 極域観測による地球内部及び太陽系の理解、(6) 極域環境下における人間社会の持続可能性と文化的多様性の調査、などである。国際極年合同委員会は、各国研究者に研究計画の提案を呼びかけるとともに、その評価と調整を行った。我が国は、日本学術会議が地球惑星科学委員国際対応分科会国際極年 2007-2008 対応小委員会を立ち上げ、個々の研究者、研究機関と関係を取り、国際極年計画の推進を図っている。IPY2007-2008 の期間は、2007 年 3 月から 2009 年 3 月までの 2 年間である。我が国は南極地域や北極域での観測計画への積極的な参加とともに、国内での極域科学の研究及びアウトリーチ・教育活動も積極的に実施して行くこととした。2007 年 3 月 1 日には、IPY キックオフ・シンポジウムとしての「International Symposium-Asian Collaboration in IPY 2007-2008」を日本学術会議と国立極地研究所との共催で開催した。